

東日本大震災からの復興まちづくり

石巻市長 亀山 紘

石巻市
人口 146,516人
世帯 61,268世帯
面積 554.58Km²
(2017.9.30現在)

石巻市の被害状況 1



地震概要

発生日時	2011年3月11日（金）14時46分
震央地名	牡鹿半島の東南東約130kmの三陸沖
深さ	24 km
規模	M 9.0
震度	震度6強（石巻市）

津波概要

津波の高さ	T.P + 8.6m（鮎川）
浸水面積	73 km ² （2011年4月18日） ※市内の13.2%（平野部の約30%）が浸水



津波引波時の旧北上川中瀬地区（3月11日17:00）



JR石巻駅前浸水状況（3月12日10:25）

石巻市の被害状況 2



人的被害

死者 3,181人
行方不明者 420人

建物被害

全壊 20,041棟
半壊 13,048棟
一部損壊 23,615棟
合計 56,704棟 (被災前全住家の76.6%)

避難状況

最大避難者数 50,758人 (2011年3月17日時点)
最大避難所数 259か所

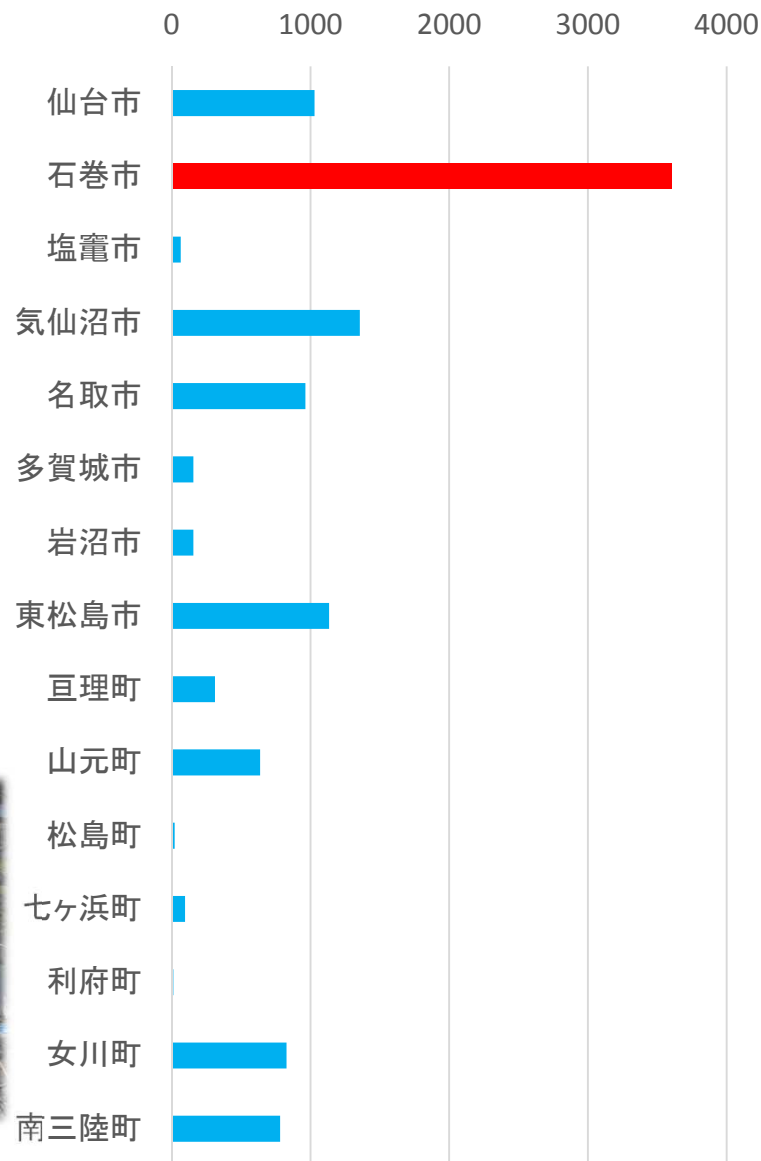


被災した門脇小学校



陸に打ち上げられた船

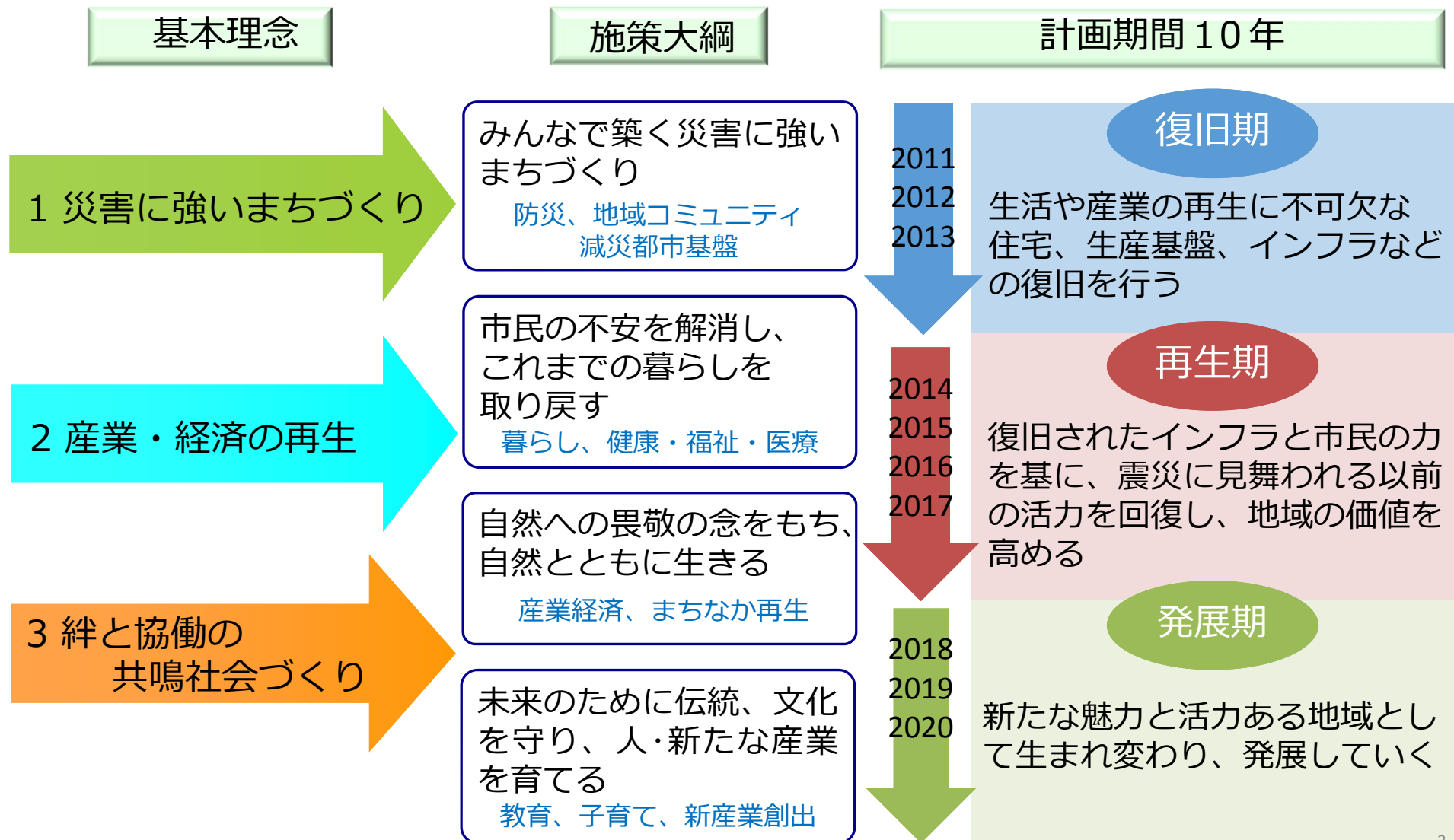
宮城県沿岸部の死者・行方不明者



石巻市震災復興基本計画



2011年12月に、復興の基本的な考え方や今後の復興に関する施策の展開、地区別の整備方針など10年間の復興に向けた道標として策定

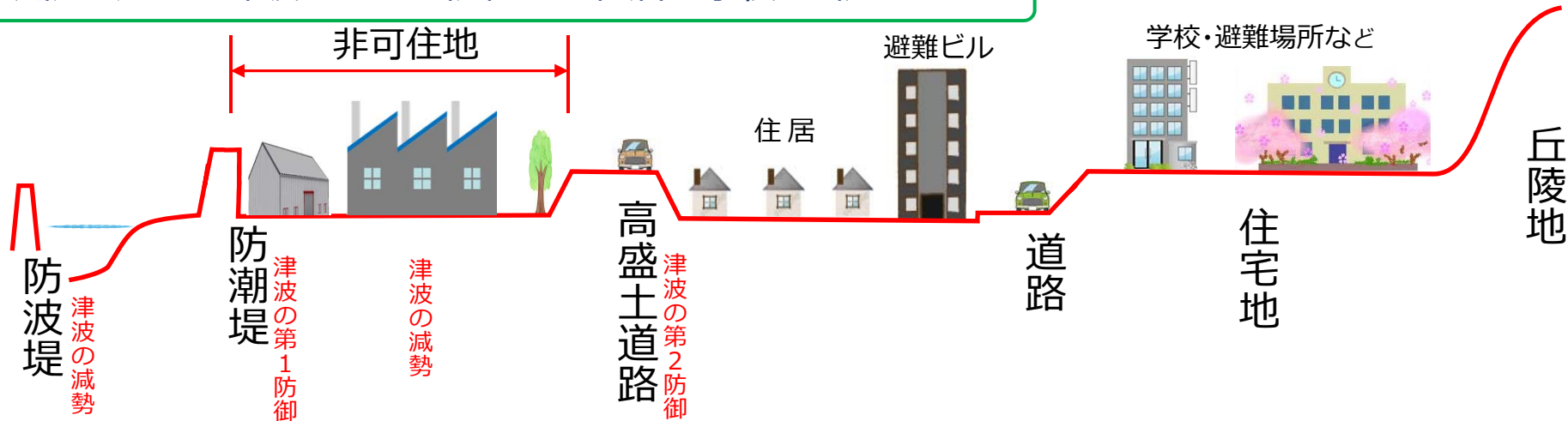


土地利用の基本的な考え方



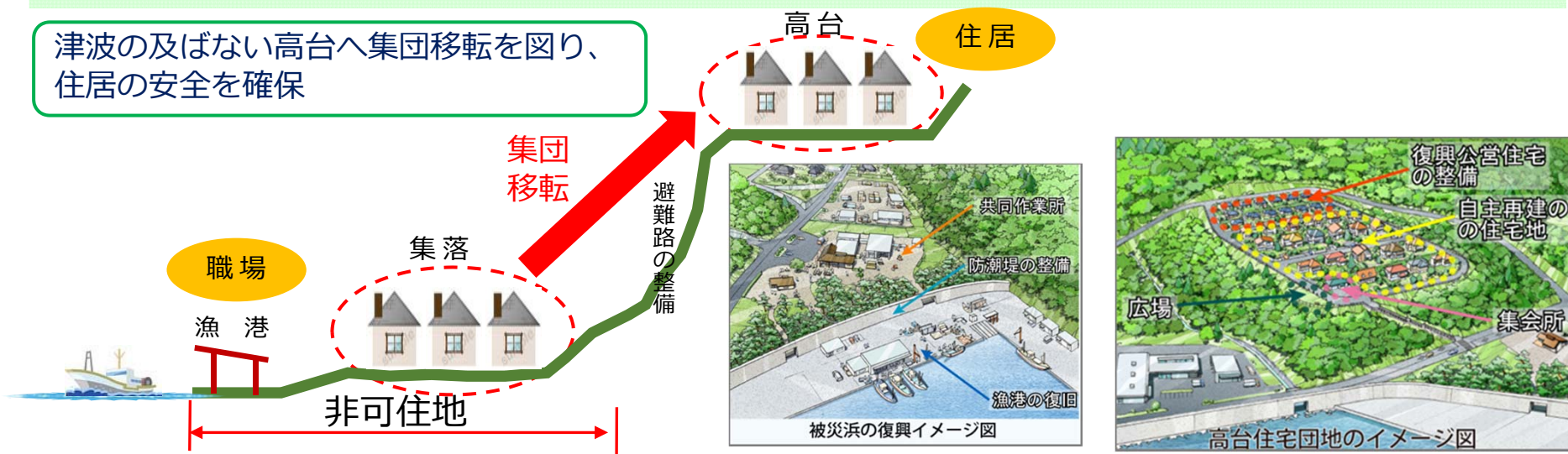
市街地部

堤防と道路で津波を二重に防御し、住居や学校・病院を守る



半島沿岸部

津波の及ばない高台へ集団移転を図り、住居の安全を確保



市街地の復興状況



住まいの再建を復興の最優先課題とし、
高盛土道路から内陸部のエリアに住民の
意向を踏まえた土地区画整理事業を推進



2011



2017

新蛇田地区



日々変わり続ける新蛇田地区の街並み



四季の並木道



せせらぎの小径



水辺の空間

半島沿岸部の復興状況



宅地造成

46地区65団地が2017年度中に全て完成

復興公営住宅

市街地部・半島部併せて2017年度中に4,253戸完成（進捗率約95%）

雄勝地区

2011



2017



2020



※整備イメージ

北上地区



※整備イメージ

牡鹿地区



※整備イメージ

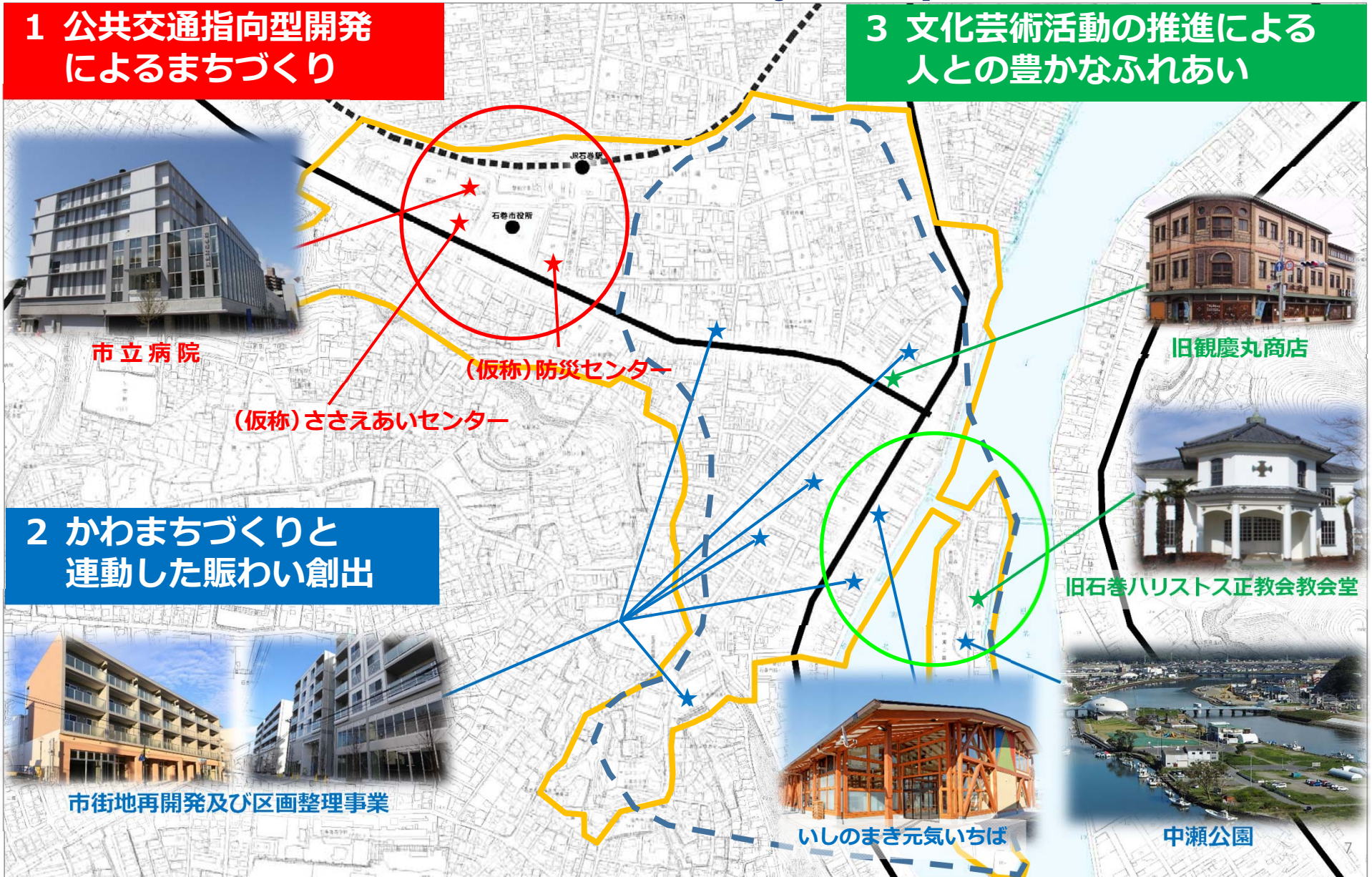
まちづくりを進めるにあたって



Creative, Community, Compact

1 公共交通指向型開発
によるまちづくり

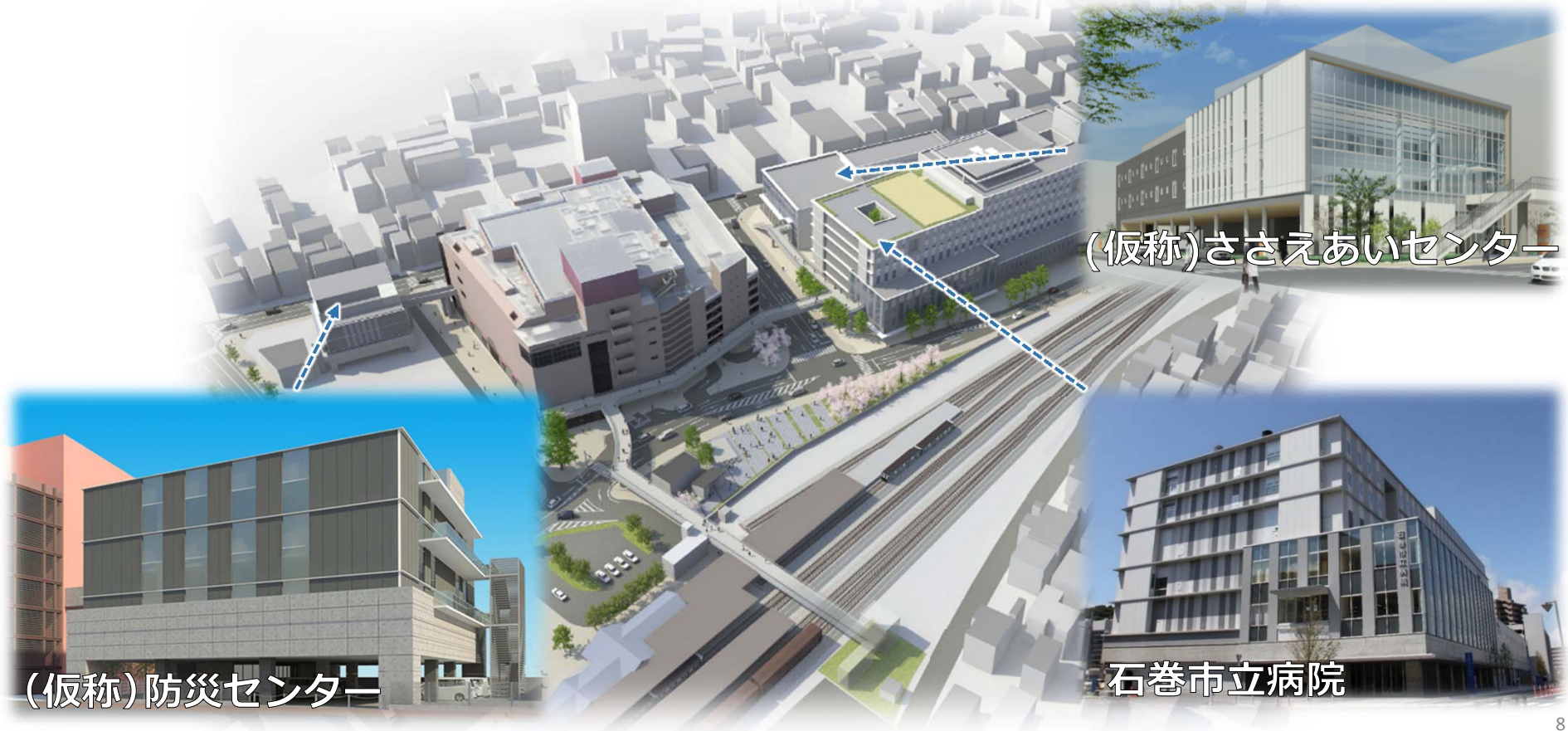
3 文化芸術活動の推進による
人との豊かなふれあい



公共交通指向型開発によるまちづくり



- ▶ J R 石巻駅周辺に保健・福祉・医療・介護・行政・防災等の**拠点を集約整備**し、災害時の市民・来訪者の避難及び市民生活の復旧支援を迅速かつ確実に実施
- ▶ 市立病院と関係機関が連携し、市内各地で展開する**地域包括ケアシステムを総括**
- ▶ (仮称) ささえあいセンターを**多職種連携・交流の拠点**とし、包括ケアの効果が市内全域に行き渡ることを目指す
- ▶ これらの施設を市役所庁舎と歩行者デッキで連結し、相互の連携強化



コンパクトな「歩いて暮らせるまちづくり」の推進



市民の買物等の利便性向上とともに、閉じこもりがちな高齢者が外に出る機会や地域の人とのふれあいの場を創出



ASATTE



旧観慶丸商店

旧石巻ハリストス正教会教会堂



老人福祉センター寿楽荘



子どもセンター「らいつ」

かわまち交流拠点の整備

東北地方整備局との連携事業



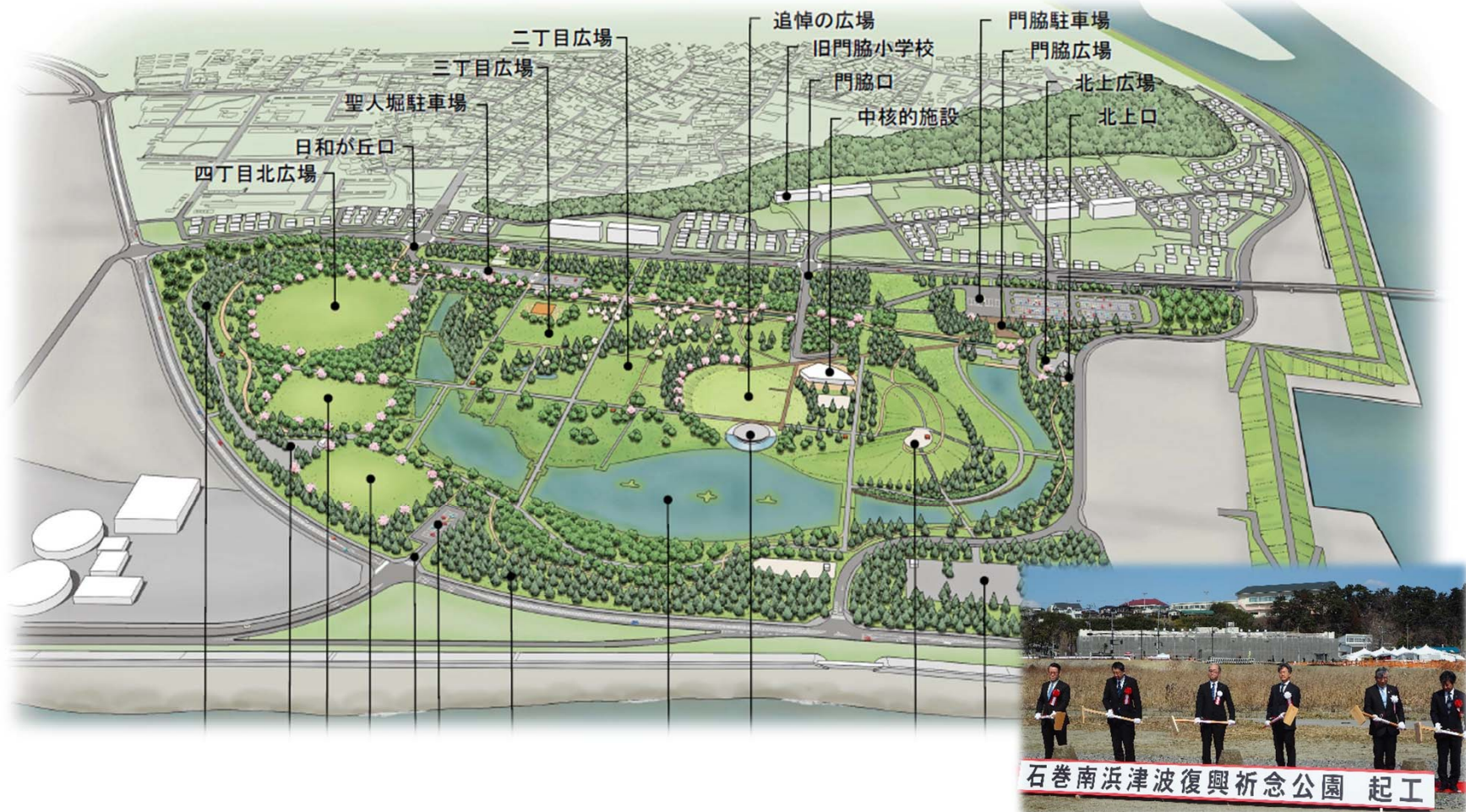
川湊として栄えた歴史を踏まえ、**かわとまちが一体となった空間**を整備し、
まちのにぎわいを創出



石巻南浜津波復興祈念公園の整備 東北地方整備局との連携事業



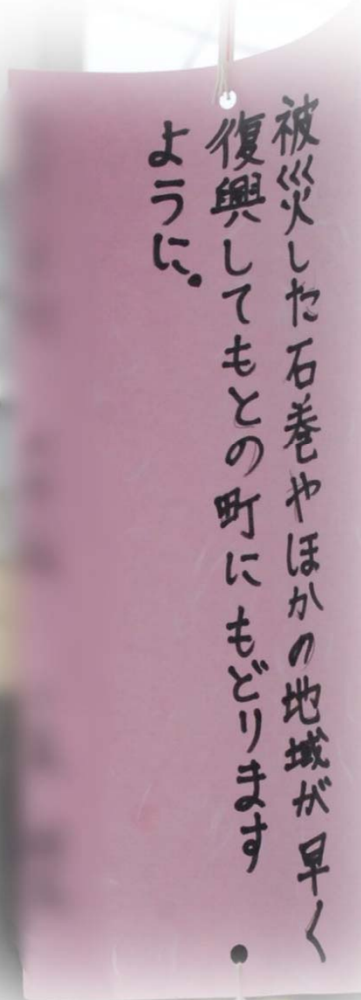
- ▶ 県内唯一の国、県、市の連携による復興祈念公園
- ▶ 犠牲者への追悼と鎮魂の場を構築し、震災の経験と教訓を後世に伝承
- ▶ 総面積 38.8 ha
- ▶ 2017年3月19日起工式 → 2020年度完成予定



新たな魅力と活力ある石巻市を目指して



- 1 石巻駅周辺に都市機能を集積・高度化した中核拠点づくり
- 2 地域包括ケアを市内全域で展開するための多職種の連携・交流拠点づくり
- 3 かわまちづくりと連動した賑わいと安らぎのあるコンパクトなまちづくり



被災した石巻やほかの地域が早く
復興してもとの町にもどります
ように。